

2024年3月期 決算説明資料

2024年5月9日

1. お伝えしたいこと

- (1) お伝えしたいこと

2. ありたい姿の実現に向けて

- (1) 中期戦略の振り返りと強化するポイント
 - ①安全・品質・コンプライアンス強化
 - ②モノづくり基盤革新の新段階
 - ③人的資源を最適化するタスクフォース運営
- (2) 進化する経営スタイル

3. 2024年3月期 業績

- (1) 連結業績と概要
- (2) セグメント別 売上高・営業利益（増減分析・事業概況）
- (3) 連結貸借対照表
- (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

4. 2025年3月期 業績予想

- (1) 業績予想／EBITDA増減分析
- (2) セグメント別 売上高・営業利益・事業計画

5. 財務戦略

- (1) 資本収益性に関する現状分析・向上策
- (2) 株価指標に関する現状分析・向上策
- (3) キャッシュアロケーションの見直し
- (4) 配当方針の見直し及びエクイティコントロールの強化
- (5) 株主還元

お伝えしたいこと

- 2024年3月期 対前年度 増収増益
 売上高 5,581億円 (+ 3.7%)
 営業利益 624億円 (+ 31.3%)
 EBITDA 961億円 (+ 21.5%)
 売上高、EBITDAは過去最高値

電子材料関連市場を中心に需要低迷が継続するも、アセテート・トウの供給能力拡大や価格是正、セイフティ事業の販売数量増加や全社的なコストダウンの積み増しにより、キャッシュ創出力を確実に成長させた

- 2025年3月期 対前年度 増収増益
 売上高 6,100億円 (+ 9.3%)
 営業利益 650億円 (+ 4.2%)
 EBITDA 1,075億円 (+ 8.9%)
 いずれも過去最高値を更新

減価償却費増加の影響はあるものの、ポリプラスチックにおける増産投資の確実な収益化、セイフティ事業の構造改革により増益在庫削減をさらに強かに推進するなど資産効率を高め、ROICは6.4%を計画（2024年3月期実績：6.3%）

- 株主還元の強化
 新たな目標としてDOE4%以上を追加
 2025年3月期年間配当金
 一株当たり55円（5円増配）を計画

総還元性向40%以上に加え、安定的・継続的な株主還元目標としてDOE（株主資本配当率：Dividend On Equity ratio）を設定

- ありたい姿の実現に向けて
 中期戦略の進捗状況の振り返り
 今後、さらに強化する取り組み

- ①安全・品質・コンプライアンス強化
- ②ものづくり基盤革新を次の段階に進める
- ③新事業を早期に収益化するための人的資源を、短期テーマの専任と、中長期テーマ成功の鍵となる革新的技術確立の担当に区分して、それぞれ、新たなタスクフォースとして設置

ありたい姿の実現に向けて

(1) 中期戦略の振り返りと強化するポイント

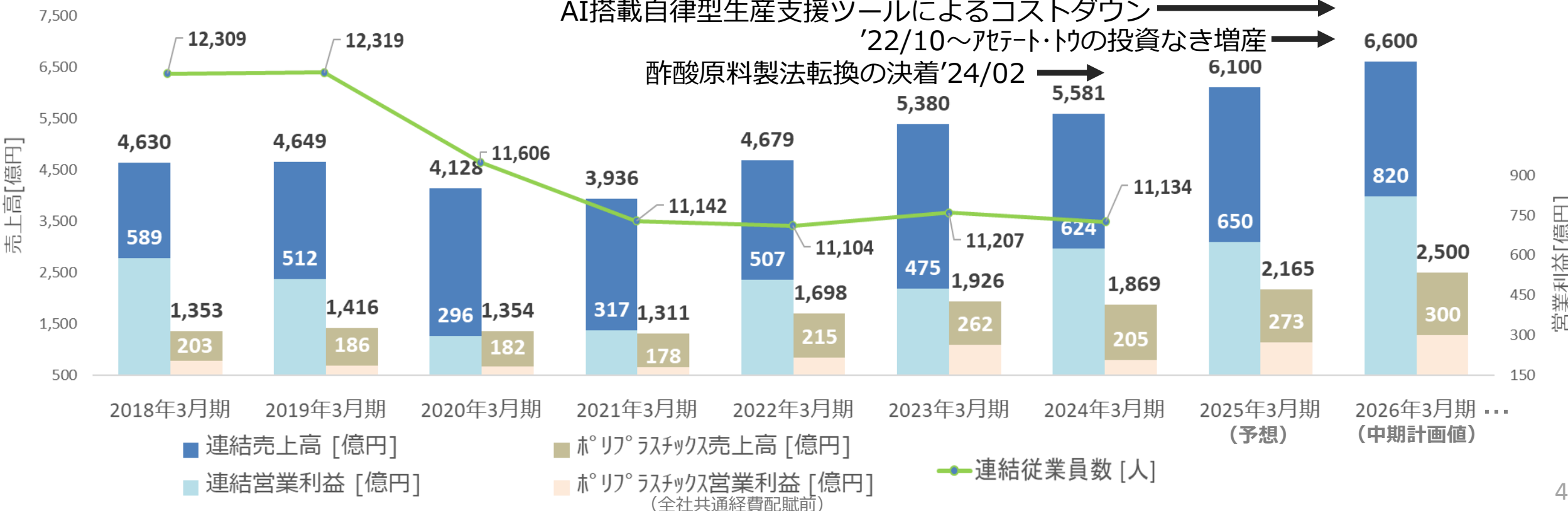
- ◇ 安全・品質・コンプライアンスといったモノづくりの基盤を引き続き強化する
- ◇ 上記をモニタリングし、従来の安全・品質・納期/量・コストだけでなく環境/マテリアリティを担保する安心最適なモノづくりセンターを網干工場の統合生産センターに隣接設置する
- ◇ 新事業を早期に収益化する短期テーマと、革新的共通基盤技術の着実な確立により、新たに当社の収益基盤となる中長期テーマに分け、人的資源を効率的に投入する新体制に変える

防衛事業撤退完了・セイフティ事業拠点集約・ポリプラスチックス完全子会社化 →

AI搭載自律型生産支援ツールによるコストダウン →

'22/10～アテート・トウの投資なき増産 →

酢酸原料製法転換の決着'24/02 →



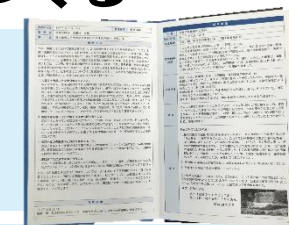
安全・品質・コンプライアンス強化

中期戦略達成に向け、生産性向上だけでなく「安全・品質の盤石化」と「作業改善による現場多忙感の払拭」を強力に推進。現場の安全確保、作業環境改善のための投資、取り組みを徹底し、企業基盤である安全・品質・コンプライアンスのさらなる強化につなげるとともに、従業員一人ひとりが持てる力を存分に発揮し、働く幸せを実感できる環境を整え、次年度以降のさらなる飛躍に備える

安全・品質・コンプライアンスの強化とモノづくり基盤の強化を連携する仕組みをつくる

社内啓発

- ダイセルグループ行動指針・倫理規範を刷新「企業人の前に良き社会人たれ」
- 過去50年の重大事例・通達を手帳化（全従業員が常時携行し、風化を防ぐ）



体制強化

- 安全・品質・コンプライアンスに関する監査機能と実行機能を分離・明確化

資源配分

- 安全・品質・コンプライアンス強化に関わる集中投資（16億円/’23/3→48億円/’24/3、89億円/’25/3）
 - 品質管理を代表点管理から連続点管理へ→品質強化⇒小ロット化⇒物流改革=棚卸資産の圧縮へ
 - 広域災害に対応する各工場の安全安心確保・地域支援力強化・BCPの充実
- 安全・品質・納期/量・コスト+環境/マテリアリティをモニタリングかつ最適化する
安心最適モノづくりセンター「バーチャルバリューチェーンコントロールセンター(VVCC)」を
網干の統合生産センターに隣接設置する

ありたい姿の実現に向けて

- ◇ **新事業を加速するため、短期テーマは、早期決着型組織(従来の兼任プロジェクト体制から、選抜専任者によるタスクフォース)に集約し、人的資源を絞り早期収益化する**
中長期テーマについては、既存当社独自技術に、新たに獲得する革新的基盤技術を組み合わせ、新たな収益基盤の確立に特化したタスクフォースを設置し、将来の成長分野を開拓する
- ◇ **上記に併せて、エンジニアリングセンターを従来の専門領域別組織一本から、専門組織+自己完結型建設組に改革する**

短期課題

基盤事業のキャッシュ創出力最大化

- セルロースタスクフォース OP- I
 酢酸セルロース製法転換の仕上げ
 - ・ 低LCAパルプの採用拡大
 - ・ DAC&TAC併産プロセス
 - ・ 脱リンター
 - ・ 生分解性の適用範囲拡大

DAC: di-acetyl cellulose 二酢酸セルロース
 TAC: tri-acetyl cellulose 三酢酸セルロース

- xEVタスクフォース OP- I
 e-Axle、バッテリーをターゲット
 ポリプラ耐摺動素材他機能素材

短中期課題

マーケットに密着した成長牽引育成事業の加速

- マイクロデバイスタスクフォース OP- II
 レジストポリマー製造から導入

- ビヨンドコーティングタスクフォース OP- II
 無機・有機複合コーティング
 →オルネクス(素材)×ビヨンド(コーティング)

- バイオマスアセチルチェーン OP- II
 (とかす技術) タスクフォース

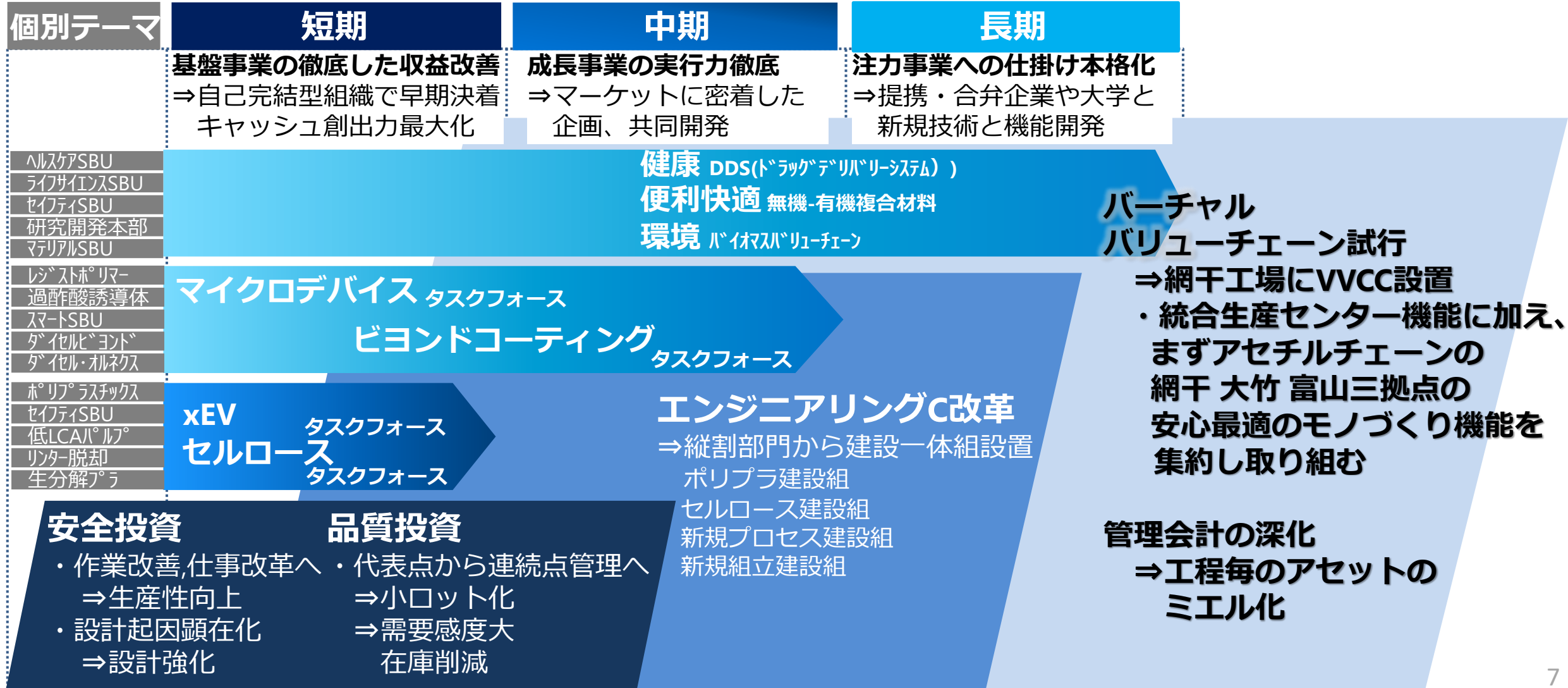
長期課題

将来の成長分野に標的を合わせた先行開発

- 健康 OP- II
 DDS (ドラッグデリバリーシステム)
- 便利・快適 OP- II
 - ・ 無機・有機ハイブリッド材料 (半導体部素材)
 - ・ ナノダイヤモンドの機能修飾 (レアアース代替材料)
- 環境 OP- III
 - ・ 次世代メタノール (CO₂還元)
 - ・ バイオマスバリューチェーン (衝撃工学、エネルギー工学技術)

決着型短期研究テーマ/マーケット密着型中長期テーマとバーチャルバリューチェーンの構築

テーマを集約して各アクションチームをタスクフォースに統合し、限られた人的資源で目的とする収益を達成する



(2) 進化する経営スタイル

DXにより、モノづくり、働き方を変革させるなかで、これまで以上に人間の果たす役割が重要になるダイセルグループの人財が持つ力を最大限引き出すため、さらに経営を進化させていく

◇ 愛する未来研究所の設置

AIの活用範囲拡大と並行して「人間性への回帰」を標榜し、その実現のための戦略や社内施策を提言するシンクタンク組織を新たに設置

◇ 人財の力を引き出すコミュニケーション

・ オープン&ダイバースな会議体

経営層の会議体に、役員以外の部門長や様々なバックグラウンドを持つ社外アドバイザーが複数名参加。多様な視点を生かし活発に議論

・ DAICON (ダイセルグループ・ビジネスモデルコンテスト) 開催

現場の多様な視点から生まれた新たなビジネスモデルのアイデアや課題を従業員が発表し、経営層とも侃々諤々の議論を実施。この取り組みから、CVC (コーポレートベンチャーキャピタル) 機能を持つ新組織も誕生

・ 従業員と経営層とのフラットなコミュニケーション

経営が中期戦略に込めた想いや本音を伝えるため、従業員有志による経営層への個別インタビュー動画の配信や、経営層とざっくばらんに語らうイベントを開催



2024年3月期 業績



連結業績・経営指標

単位：億円	2023/3 実績	2024/3 予想(※)	2024/3 実績	対前年度		対予想		2023/3 実績	2024/3 予想(※)	2024/3 実績	
				増減	増減率	増減	増減率				
売上高	5,380	5,620	5,581	+200	+3.7%	△ 39	△0.7%	EBITDA	791	970	961
営業利益	475	610	624	+149	+31.3%	+14	+2.3%	ROE	14.3%	17.5%	17.1%
経常利益	520	655	684	+164	+31.4%	+29	+4.4%	ROIC	5.3%	6.3%	6.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	407	540	558	+152	+37.2%	+18	+3.4%	ROA	5.6%	6.9%	7.0%
為替レート USD/JPY	136	138	145					EPS (円)	138.87	188.84	197.56

※ 2024年3月期業績予想：2023年11月2日発表の業績予想

概要

対前年度

増収増益。キャッシュ創出力を上げるとともに、資本効率指標も向上

- 電子材料関連市場の需要低迷の影響を受けるも、アセテート・トウの供給能力拡大・価格是正、セイフティ事業の販売数量増加、為替影響などにより、売上高は増加
- アセテート・トウの販売価格是正、原燃料価格の低下、為替影響などにより営業利益・EBITDAは増加
- 政策保有株式の売却により、親会社株主に帰属する当期純利益は増益、EPSも向上

対予想

売上高・EBITDAは予想をほぼ達成。営業利益は予想を上回った

- 電子材料関連市場の需要回復が想定を下回ったものの、為替が円安で推移したことなどにより、売上高は予想をほぼ達成
- 販売数量は未達となるも収益改善施策の確実な実行や為替影響（想定より円安）、一酸化炭素プラント稼働時期変更の影響などにより営業利益は予想を上回った

セグメント別 売上高・営業利益

単位：億円	売上高						
	2023/3 実績	2024/3 予想 (※)	2024/3 実績	対前年度		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	166	140	139	△ 27	△16.0%	△ 1	△0.5%
スマート	296	330	307	+11	+3.8%	△ 23	△6.9%
セイフティ	840	960	956	+116	+13.8%	△ 4	△0.4%
マテリアル	1,608	1,805	1,853	+246	+15.3%	+48	+2.7%
エンジニアリングプラスチック	2,381	2,330	2,268	△ 112	△4.7%	△ 62	△2.7%
その他事業	91	55	57	△ 34	△37.3%	+2	+3.2%
合 計	5,380	5,620	5,581	+200	+3.7%	△ 39	△0.7%

単位：億円	営業利益								
	2023/3 実績	2024/3 予想 (※)	2024/3 実績	対前年度		対予想		2023/3 実績	2024/3 実績
				増減	増減率	増減	増減率		
メディカル・ヘルスケア	13	10	8	△ 5	△37.2%	△ 2	△20.9%	29	20
スマート	△ 6	△ 11	△ 29	△ 22	-	△ 18	-	21	1
セイフティ	5	43	30	+25	+478.5%	△ 13	△30.4%	71	103
マテリアル	207	375	427	+220	+106.3%	+52	+14.0%	320	560
エンジニアリングプラスチック	253	190	183	△ 70	△27.7%	△ 7	△3.7%	340	267
その他事業	3	3	4	+1	+21.6%	+1	+40.7%	9	10
合 計	475	610	624	+149	+31.3%	+14	+2.3%	791	961

※ 2024年3月期業績予想は2023年11月2日に発表した業績予想です。また、比較のため、2023年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映
 ・化粧品原料1,3-BG（メディカル・ヘルスケア→マテリアル） ・新規投与デバイス研究開発機能（セイフティ→メディカル・ヘルスケア）

セグメント別 売上高・営業利益（対前年度 増減・要因分析）

単位：億円	売上高						
	2023/3 実績	2024/3 実績	増減	増減率	分析		
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	166	139	△ 27	△16.0%	△ 34	+8	+7
スマート	296	307	+11	+3.8%	+8	+4	+5
セイフティ	840	956	+116	+13.8%	+84	+32	+14
マテリアル	1,608	1,853	+246	+15.3%	△ 85	+331	+104
エンジニアリングプラスチック	2,381	2,268	△ 112	△4.7%	△ 66	△ 46	+83
その他事業	91	57	△ 34	△37.3%	△ 34	-	-
合 計	5,380	5,581	+200	+3.7%	△ 127	+328	+212

単位：億円	営業利益							
	2023/3 実績	2024/3 実績	増減	増減率	分析			営業利益の内 為替影響
					数量影響	価格影響	その他	
メディカル・ヘルスケア	13	8	△ 5	△37.2%	+1	+4	△ 10	+3
スマート	△ 6	△ 29	△ 22	-	+5	+2	△ 29	△ 3
セイフティ	5	30	+25	+478.5%	+32	+2	△ 10	+2
マテリアル	207	427	+220	+106.3%	△ 19	+348	△ 109	+55
エンジニアリングプラスチック	253	183	△ 70	△27.7%	△ 39	△ 18	△ 13	+24
その他事業	3	4	+1	+21.6%	+1	-	-	-
合 計	475	624	+149	+31.3%	△ 20	+339	△ 170	+81

※ 比較のため、2023年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映

・化粧品原料1,3-BG（メディカル・ヘルスケア→マテリアル） ・新規投与デバイス研究開発機能（セイフティ→メディカル・ヘルスケア）

セグメント別事業概況 2024年3月期実績（対前年度）

セグメント	主要製品	市場環境・当社事業への影響	当社の取り組み・状況
メディカル・ヘルスケア	キラル関連製品	キラル関連製品の需要は海外市場を中心に安定的に推移	安定的な需要を背景にカラムの販売数量は横這い 受託分離サービスの前年度スポット案件の影響で減収となるも、 充填剤販売数量を伸長
	化粧品原料 健康食品原料	コスメの中国市場は低調に推移。国内化粧品メーカーの中国向けも苦戦がみられた一方で、国内市場はコスメ、健康食品ともにインバウンド増加などの回復傾向が継続	コスメの販売数量は、 インバウンド増加機会を確実に捉えて拡販 健康食品は 好調な腸内代謝物に注力 し、売上高を伸長 健康食品の通販事業を2023年10月に譲渡。得意とする天然物由来の機能性食品素材の開発と製造に経営資源を集中
スマート	TAC（※） 機能フィルム フォトレジスト材料 電子材料向け 溶剤	液晶パネル市場は、前年度から継続していた在庫調整が一巡。中国・台湾のパネルメーカー向けの需要の回復に伴い、TACフィルムの需要も増加 半導体市場は、スマートフォンやパソコンなどの需要減の影響と半導体メーカーによる在庫調整が継続。レジスト材料は海外の液晶パネル材料市場向け、電子材料溶剤は国内の半導体市場向けで需要が緩やかな回復基調にある	TACは、回復基調にある海外メーカーのパネル生産の増加と、 海外顧客向け拡販によるシェア拡大 により、販売数量を伸長 機能フィルムは、特殊モニター用フィルムのシェア減少により販売数量が減少したものの、 離形フィルムの燃料電池用途の販売に注力 フォトレジスト材料は、半導体市場の需要減の影響を大きく受けたものの、液晶パネル材料市場が緩やかに需要回復している海外市場に注力することで、販売数量を増加 電子材料向け溶剤は、海外の液晶パネル材料市場の需要が低迷するなか、従来の主用途であるレジスト向けに加えて、 その他の半導体関連用途の開拓・拡販 を進めたことで、販売数量は前年並み

※TAC（Tri-acetyl cellulose）： 光学フィルム用酢酸セルロース

セグメント別事業概況 2024年3月期実績（対前年度）

セグメント	主要製品	市場環境・当社事業への影響	当社の取り組み・状況
セイフティ	エアバッグ用インフレーター	自動車生産台数は、中国ロックダウンの影響を大きく受けた前年度と比較して増加し、インフレーター需要も増加	自動車生産台数増加に加え、新規獲得プログラムの販売開始により、 インフレーターは過去最高の販売数量達成 計画通り2023年10月に、 北米ケンタッキー拠点のインフレーター製造を終了し、アリゾナ拠点に集約 インド新製造拠点も商業運転を開始
マテリアル	アセチル	酢酸の主用途であるPTA・VAMや、酢酸エチルの液晶ディスプレイ用粘着剤用途など電子材料用途の需要は、前年度からの低迷が継続。酢酸市況も前年度から引き続き軟調に推移	需要低迷の影響を受け、販売数量の減少、市況も低下する中で、酢酸のスポット販売や、酢酸や酢酸誘導体の比較的需要の堅調な地域・市場への拡販に注力
		世界のたばこ生産本数は前年度から横這い水準だが、加熱式たばこ用の需要増からアセテート・トウ需要は堅調に推移	アセテート・トウは、 既存設備の生産性向上の取り組みにより供給能力を拡大し販売数量を増加 販売価格は、為替影響や需要増加に伴う販売価格是正により上昇
	ケミカル	<p>カプロラクトン誘導体は、ウレタン既存用途の需要が低下。脂環式エポキシは、電子基板・液晶ディスプレイ用途の需要回復は鈍く低調に推移</p> <p>1,3-BGの主要市場である中国コスメ市場は低調に推移。国内市場は、インバウンド需要の影響はあるものの、国内化粧品メーカーの中国向け苦戦が影響して低調</p>	<p>カプロラクトン誘導体は、中国向け需要低迷により販売数量が減少する中、自動車向けPPF※など成長分野への拡販アクションに注力</p> <p>脂環式エポキシも、市場の回復遅れにより販売数量が減少する中、OLED封止材やFRP用途など高付加価値領域の拡販に注力</p> <p>1,3-BGは、需要が低調に推移するなかでも韓国および米国向けに拡販を実施し、販売数量を増加</p>

※PPF（Paint Protection Film）： 塗料保護フィルム

セグメント別事業概況 2024年3月期実績（対前年度）



セグメント	主要製品	市場環境・当社事業への影響	当社の取り組み・状況
エンジニアリング プラスチック	ポリプラスチックス	グローバルでの自動車生産台数は前年度を上回った。一方で、自動車部品用途のPOM、PBT、PPSの需要は顧客の在庫調整の長期化や、国内自動車メーカーの生産調整、中国市場における日系自動車メーカーの伸び悩みなどの影響を受けた	顧客の在庫調整の終了に伴い、2Qより自動車部品用途の需要が回復。 ローエンドマーケットへの販売拡大などの販売数量リカバリー策を実施 需要回復の遅れているLCPを除き、ほぼ前年度並みの販売数量を確保
		電子デバイスの需要は低迷。各電子デバイスメーカーが在庫調整のため生産抑制を継続し、LCPの需要は低下	

連結貸借対照表

単位：億円		2023年 3月末	2024年 3月末	増減
流動資産		4,066	4,095	+29
	現預金及び有価証券	938	732	△ 207
	受取手形及び売掛金	1,015	1,144	+129
	棚卸資産	1,772	1,825	+53
	その他	341	394	+53
固定資産		3,590	4,297	+707
	有形固定資産	2,561	3,089	+528
	無形固定資産	112	108	△ 4
	投資その他資産	917	1,100	+183
資産合計		7,656	8,392	+736
負債		4,552	4,643	+91
	有利子負債	3,220	3,041	△ 179
	その他	1,332	1,602	+270
純資産		3,104	3,749	+644
負債純資産 合計		7,656	8,392	+736

- 総資産増加額736億円のうち、410億円は為替影響
- 資産効率化の一環として、海外グループ企業も含め現預金を圧縮
- 棚卸資産増加額のうち65億円は為替影響
- 有形固定資産増加の主な要因は、ポリプラスチックグループのPOM・LCP・COC製造能力増強投資
- 投資その他資産は、政策保有株式の一部の売却を進めているものの、時価上昇により増加

単位：億円

		2023/3	2024/3	増減
	営業キャッシュ・フロー	268	767	+499
	投資キャッシュ・フロー	△ 441	△ 554	△113
フリーキャッシュフロー		△ 172	214	+386
財務キャッシュ・フロー		200	△ 524	△723
その他		28	59	+31
現金及び現金同等物の増減額		55	△ 251	△306
現金及び現金同等物の当期末残高		935	684	△251

- 営業キャッシュ・フロー：+499億円
増益に加え、棚卸資産の増加を抑制したことにより、対前年度で大きく増加
- 投資キャッシュ・フロー：△113億円
政策保有株式売却を進める一方で、積極的な設備投資を実施
- フリーキャッシュフローは+214億円となり、対前年度で386億円改善
- 財務キャッシュ・フロー：△723億円
株主還元を強化するとともに有利子負債返済を進め、財務健全性も維持・強化

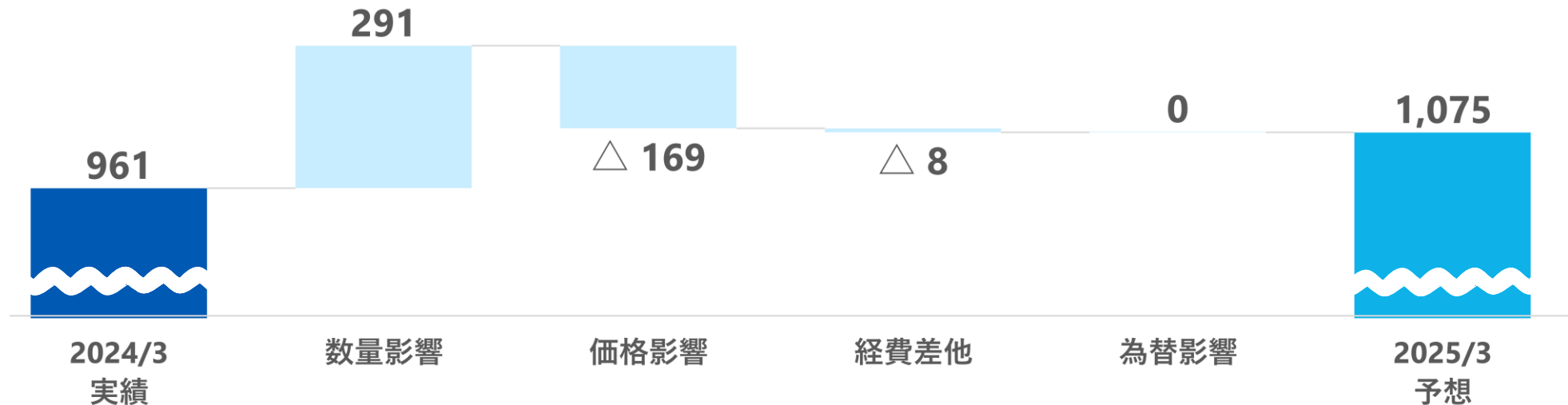
2025年3月期 業績予想/EBITDA増減分析

単位：億円

	2024/3 実績	2025/3 予想	増減	増減率
売上高	5,581	6,100	+519	+9.3%
営業利益	624	650	+26	+4.2%
経常利益	684	670	△ 14	△2.0%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	558	580	+22	+3.9%
為替レート USD/JPY	145	145		

	2024/3 実績	2025/3 予想
EBITDA	961	1,075
ROE	17.1%	15.6%
ROIC	6.3%	6.4%
ROA	7.0%	7.0%
EPS (円)	197.56	210.29

EBITDA増減分析



◇ 業績予想

減価償却費増加の影響はあるものの、需要回復機会を捉えた拡販の推進、エンプラ増産、セイフティの事業構造改革により増収増益を計画

- 電子材料関連市場は年度後半にかけて見込まれる需要回復を確実に捉えた拡販を推進
下期にはPOM・LCP増設プラントの稼働を開始し、売上高を押し上げる
- 前期までに取り組んできたセイフティの事業構造改革（北米ケンタッキー拠点生産終了など）の効果顕在化が利益を底上げ
減価償却費は対前年度90億円増加するも、各事業における販売数量増加やコストダウンの徹底により、増収増益を計画
- 減価償却費増加により営業利益率の低下を見込むも、手元流動性および棚卸資産の圧縮、政策保有株式売却などアセットライトを進め、ROICは6.4%を計画

◇ EBITDA増減分析

- 各事業における拡販や、エンプラ増設プラントの稼働により、数量影響はプラス
- 酢酸市況の低下や、エンプラのローエンドマーケットへの販売拡大などにより、価格影響はマイナス
- セーフティ事業の構造改革効果顕在化のほか、各事業において徹底したコストダウンを実施するものの、拡販や増設プラント稼働に伴う費用の増加により、経費差他は若干のマイナス
- 為替レート（USD/JPY）前提 2024/3実績：145円 ⇒ 2025/3予想：145円

2025年3月期 通期業績予想 セグメント別 売上高・営業利益

単位：億円

	売上高				営業利益				EBITDA	
	2024/3 実績	2025/3 予想	増減	増減率	2024/3 実績	2025/3 予想	増減	増減率	2024/3 実績	2025/3 予想
メディカル・ヘルスケア	139	150	+11	+7.7%	8	8	+0	+1.1%	20	18
スマート	338	355	+17	+5.0%	△ 9	△ 5	+4	-	23	25
セイフティ	956	1,080	+124	+13.0%	30	77	+47	+157.4%	103	153
マテリアル	1,822	1,860	+38	+2.1%	408	325	△ 83	△ 20.3%	539	517
エンジニアリング プラスチック	2,268	2,600	+332	+14.6%	183	237	+54	+29.5%	267	349
その他事業	57	55	△ 2	△ 3.1%	4	8	+4	+89.6%	10	13
合 計	5,581	6,100	+519	+9.3%	624	650	+26	+4.2%	961	1,075

※2024年4月1日付の組織変更により、TAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメントを変更しました。

比較のため、2024年3月期実績は、それらのセグメント変更を反映しています。（セグメント変更の詳細はP33をご参照ください）

セグメント	主要製品	市場環境の見通し・当社事業への影響	当社の取り組み
メディカル・ヘルスケア	キラル 関連製品	キラル関連製品の需要は、インド・中国におけるジェネリック医薬企業向けなど、海外を中心に堅調に推移する見通し	カラムの販売数量は、 中分子医薬向けのアキラルカラムの拡販 などにより対前年度で増加を計画。また、 中国・インドでの中分子医薬向けサービス需要拡大に対応 し、サービス事業を強化 ダイセルメディカルの医療機器製造販売業許可および医療機器薬事承認取得を推進。また、PharmaJet社と世界的な無針注射器市場の立ち上げを協働するとともに、 アクトランザの米国薬事承認手続き早期完了を目指す
	化粧品原料 健康食品原料	化粧品の中国市場は緩やかな復調を想定するが低調に推移する見通し。一方で、国内市場はインバウンド需要が好調を維持する見通し 健康食品の国内市場は堅調に推移する見通し	化粧品原料は、 新規用途開拓などにより販路拡大 を図るとともに、BELLOCEA（真球状酢酸セルロース）の生分解性改良グレードなど 新製品を投入 し、対前年度で売上高の増加を計画 健康食品原料は、新製品の腸内代謝物「アストロホップ®」の投入や、ラクトビオン酸など 既存製品の新たな機能の拡大 により拡販を推進することで、対前年度で売上高の増加を計画

セグメント	主要製品	市場環境の見通し・当社事業への影響	当社の取り組み
スマート	<p>カプロラクトン誘導体 脂環式エポキシ</p>	<p>カプロラクトン誘導体は、ウレタン既存用途の需要が低下の見込み。 脂環式エポキシは、電子基板・液晶ディスプレイ用途の需要は1Qも引き続き低調に推移する見込み</p>	<p>カプロラクトン誘導体は、成長市場であるEV向け材料や自動車向けPPF用途にマーケティングを注力し、拡販のアクションを進め、販売数量を対前年度で増加させる計画 脂環式エポキシは、OLED封止材向け新規製品の上市や当社特殊エポキシの拡販により、競合他社との差別化による拡販を進め、販売数量の対前年度で増加を計画</p>
	<p>フォトレジスト材料 電子材料向け溶剤 機能フィルム</p>	<p>半導体市場は緩やかな回復基調にあり、2Q以降に本格的な回復が見込まれ、液晶パネル材料市場はおおむね前年度並みの需要を見込む。 機能フィルムは離型フィルムの新規アプリケーションへの採用により需要増</p>	<p>フォトレジスト材料は、半導体市場の需要回復に加え、EUV用途の早期採用や溶剤と一体化したマーケティングを強化し、対前年度で販売数量の増加を計画。また、2025年3月期中のマイクロ流体デバイスプラント導入に向け、開発を加速 電子材料向け溶剤は、半導体市場・液晶パネル材料市場の需要回復に加え、新規ビジネスモデルの構築により、販売数量を対前年度で増加させる計画 機能フィルムは、車載フィルムの販売数量が減るものの、離型フィルムの燃料電池用途以外のアプリケーションへの採用により、対前年度で販売数量を増加させる計画</p>

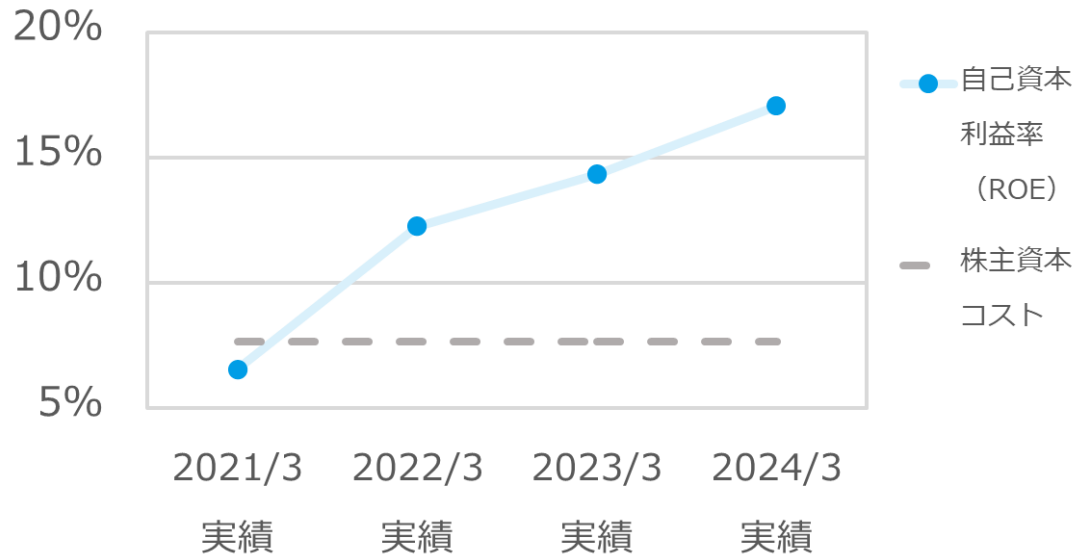
セグメント	主要製品	市場環境の見通し・当社事業への影響	当社の取り組み
セイフティ	エアバッグ用インフレーター	自動車生産台数は横這いを見込むも、中国・インドでの生産台数は堅調に推移する見通しで、当社インフレータの需要も増加が見込まれる	<p>インフレータの販売数量は、中国やインド自動車メーカー向けでの拡販により対前年度で増加を計画</p> <p>欧州EV用途電流遮断器を量産開始し、欧州・中国で拡販を計画。電流遮断器のクリーンエネルギー向け蓄電池用途やボンネットリフターの欧州・中国での販路開拓も強化</p> <p>グローバルの各拠点にて継続したコストダウンを徹底するとともに、部品、生産設備の現地調達化による投資コスト抑制、生産ライン立ち上げ期間の短縮を推進</p>
		<p>酢酸のPTA・VAM用途の需要は引き続き低調に推移し、下期からの需要回復を見込む</p> <p>世界のたばこ生産本数は前年度に引き続き横這いを見込み、アセテート・トウ需要は堅調に推移する見通し</p>	<p>酢酸は国内外で拡販アクションに取り組み、販売数量の増加を計画</p> <p>アセテート・トウは、既存設備をフル活用して需要に対応し、対前年度で販売数量の増加を計画</p> <p>原材料の安定調達・コストダウン・在庫削減を実現し、サプライチェーンを強化</p>
マテリアル	アセチル		

セグメント	主要製品	市場環境の見通し・当社事業への影響	当社の取り組み
マテリアル	ケミカル	液晶ディスプレイ向けの他素材との競争激化により、光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）需要は低調に推移する見通し	TACは、需要が低迷するなかでも 海外TACフィルムメーカーへの拡販 を実施し販売数量は対前年度で横這いを計画 品質改善、在庫削減、コストダウンを進め、TACフィルム市場におけるシェア拡大と収益力向上
		酢酸エチルの主要用途である液晶ディスプレイ市場は引き続き低調だが、食品包装用途のグラビアインキ市場は堅調に推移する見通し	需要が堅調なグラビアインキ用途での拡販アクション に取り組み、対前年度で販売数量を伸長
		中国コスメ市場の回復を見込むものの、中国での国内化粧品メーカーの苦戦は継続し、販売は低調に推移する見通し。また、競争激化による市況の低下を想定	化粧品原料は当社が高いブランド力を誇る無臭市場でのシェアを堅持するとともに、工業用途を含め、 市場規模が大きい中国、欧米でのシェア拡大 に取り組み、対前年度で販売数量の増加を計画
エンジニアリング プラスチック	ポリプラスチック	自動車生産台数は対前年度で横這いを想定。当社のシェアが高い日系自動車メーカーはEVへの対応遅れにより需要減少の見込みだが、中国自動車市場の開拓を促進し、中国現地Tierでの採用拡大により、自動車用途のエンブラ需要は堅調に推移する見通し	設計変更などによりCOCの稼働時期は延期するものの、 POM・LCPの増設プラントを下期に確実に立ち上げ 、増設キャパシティを活かして中国市場の成長と需要回復の販売機会を捉えた拡販を実施し、 対前年度で販売数量を増加
		スマートフォンやパソコンなどの電子デバイスは下期以降の需要回復を見込む。それに伴い、LCP需要も下期以降の回復を見込む	また、成長が見込まれる中国市場の開発スピードに対応する 現地開発・マーケティング体制の強化 ダイセル式生産革新展開によるポリプラスチックグループ全生産拠点でのコストダウン加速と生産効率化 による供給量の拡大

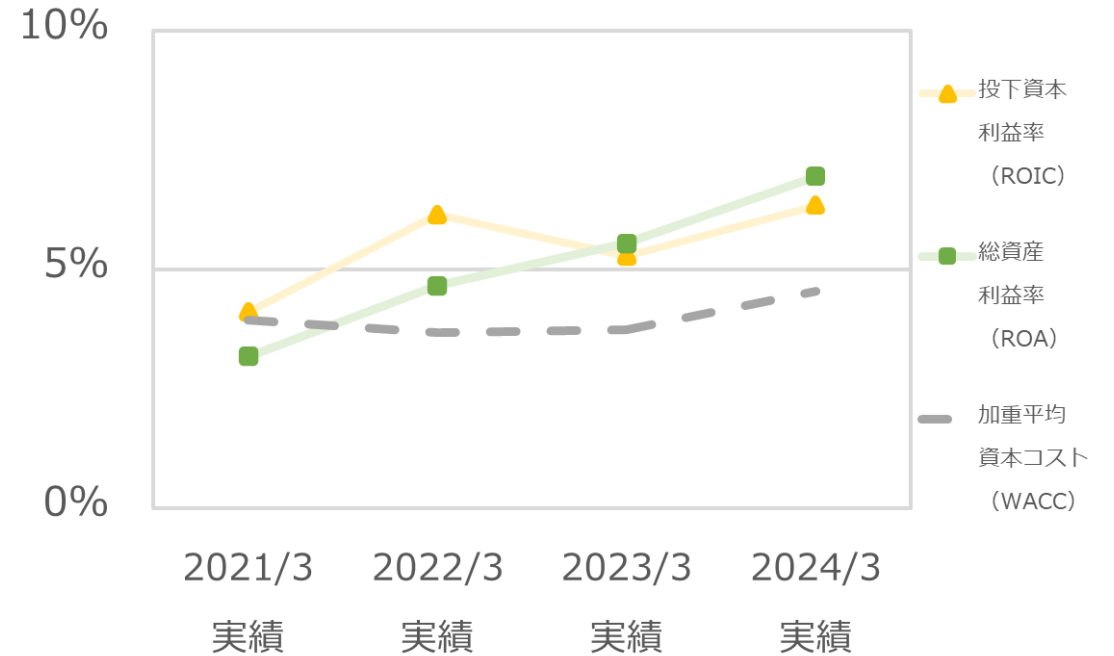
資本収益性に関する現状分析

- 当社の株主資本コスト（CAPMにより算出）は7%台半ば、加重平均資本コスト（WACC）は4%台半ばの水準
- それに対しROEは株主資本コストを、ROIC及びROAはWACCを安定的に上回って推移している

ROEの推移及び株主資本コストとの関係



ROIC/ROAの推移及びWACCとの関係



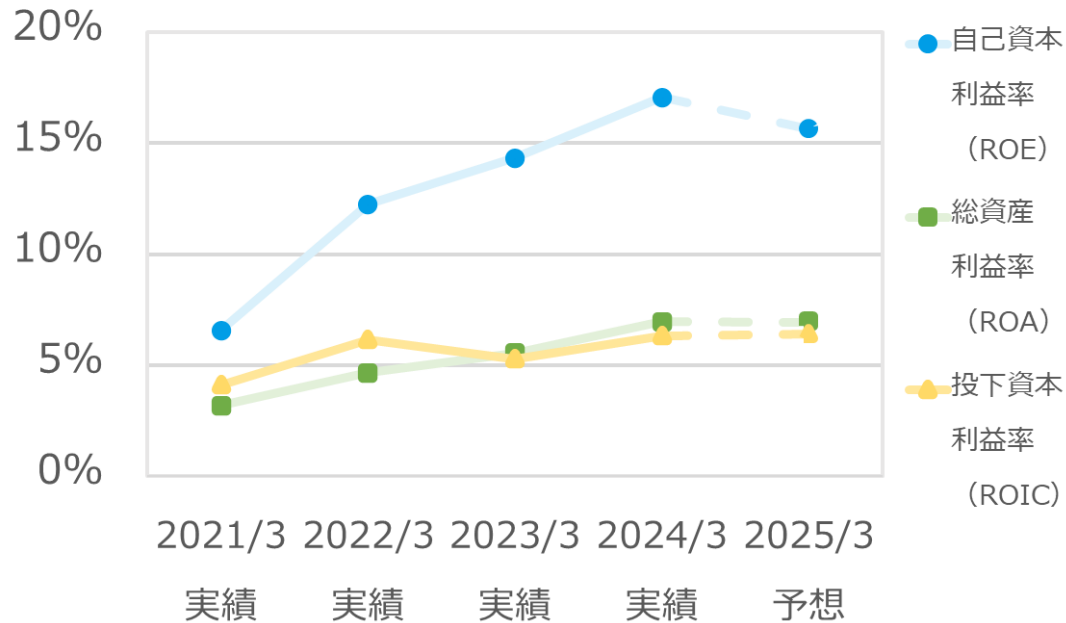
※株主資本コストはCAPMにより算出

$$\begin{array}{c}
 \text{株主資本コスト} \\
 \text{7\%台半ば}
 \end{array}
 =
 \begin{array}{c}
 \text{リスクフリーレート} \\
 \text{日本国債10年物1\%程度}
 \end{array}
 +
 \begin{array}{c}
 \text{リスクプレミアム} \\
 \text{日本株式市場のプレミアムを6\%程度と推定}
 \end{array}
 \times
 \begin{array}{c}
 \text{株式ベータ} \\
 \text{ヒストリカル法を採用1.1倍程度と認識}
 \end{array}$$

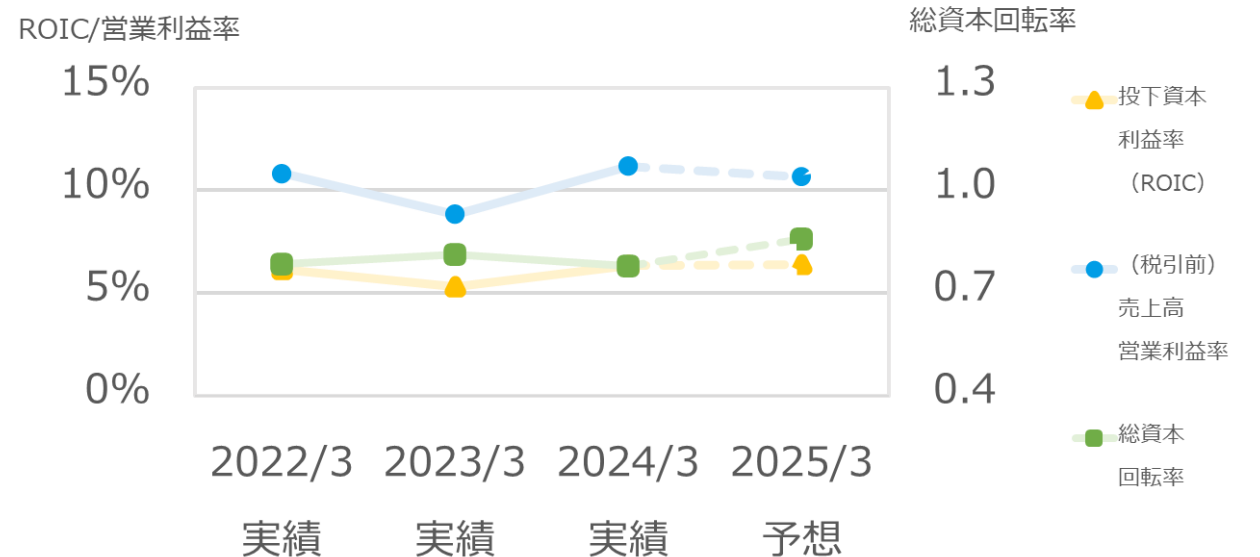
資本収益性の向上に向けて

- 2024年3月期はアセテート・トウの供給能力拡大及び価格是正、セイフティ事業の販売数量増加、コストダウンの積み増しにより営業利益率が改善、ROICは対前年度1%程度向上、資本効率が向上した
- 2025年3月期は、酢酸原料（一酸化炭素）プラント稼働に伴う償却増があるが、エンジニアリングプラスチックでの増産、セイフティ事業の構造改革などにより増益基調は維持（営業利益率は若干低下）
- 総資本回転率は改善を見込む。これは過去増加傾向にあった棚卸資産について、SCM本部及び生産現場の在庫削減アクションの実施により2025年3月期より減少に転じることが主要因。今後、エンジニアリングプラスチックでの戦略在庫抑制、連続点管理や低LCAパルプ利用への転換などの施策により、更なる在庫圧縮を実現する

ROE/ROIC/ROAの推移及び予想

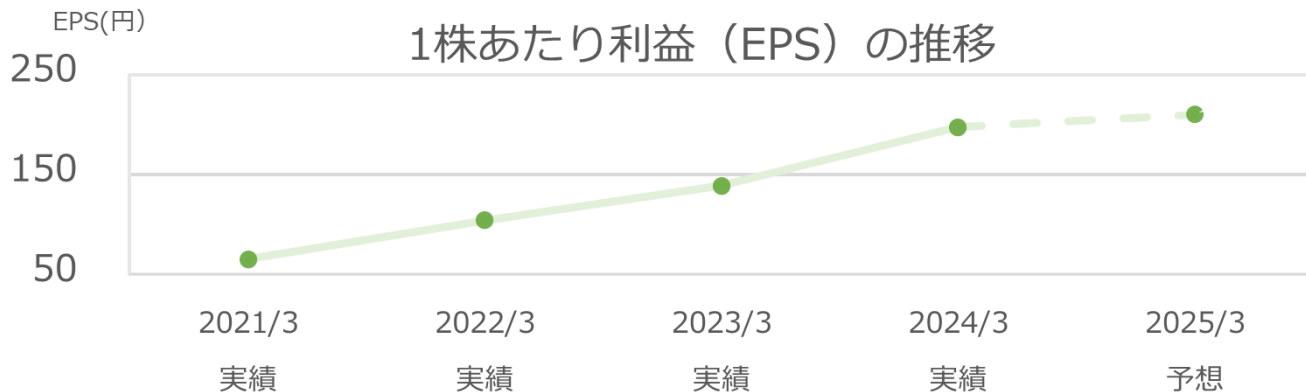
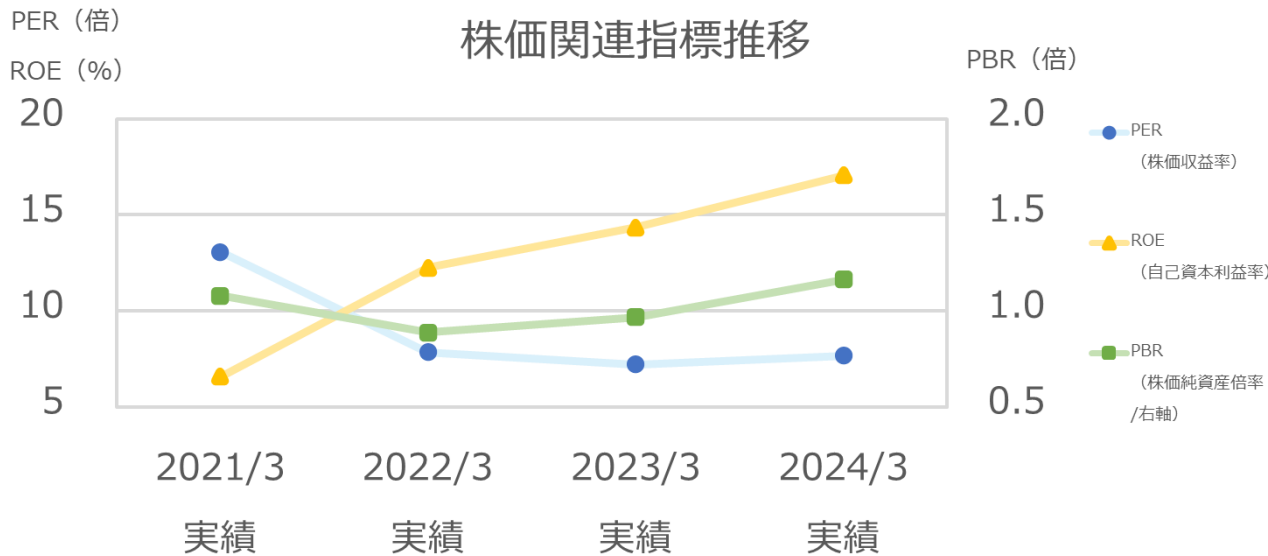


ROIC及びROICツリー構成要素の推移



株価指標に関する現状分析及び向上に向けて

- PBRは直近期中で1.1倍の水準。ROEは17%程度と自社の株主資本コスト（7%台半ば）を大きく上回る水準
- ただしPERは7倍台で推移しており、同業他社比でもやや低い水準であり課題と認識
- 自助努力として引き続きEPS向上を図り、株価及びPBRへの好影響を期待
- PER改善に向けて、これまで以上に成長戦略を分かりやすく伝えるとともに、株主還元をさらに強化していく



PBR
1倍程度

=

PER
7倍程度

×

ROE
17%程度

ROEは良好な水準であるため、PBRのさらなる上昇への課題は**PER**
 PER向上につながるアクションとして、EPSの持続的上昇を図った上で以下2点に注力

- これまで以上に当社の成長戦略を分かりやすく伝えていく
- キャッシュアロケーションの機動的な見直しにより株主還元をさらに強化

キャッシュアロケーションの見直し

- キャッシュ創出力が中期計画と比較し増加傾向にあるため、キャッシュアロケーションも機動的に見直し
- 引き続き成長投資に重点を置いた資源配分を行いつつ、これまで以上に株主還元を強化する
- 海外グループ企業からの積極的な配当還流等を通じ、連結キャッシュコントロールも強化する

23/5中期戦略見直し時点

キャッシュイン (24/3期以降3年累計)

単位：億円

営業CF	2,876
キャッシュ	2023年3月末 935
	政策保有 株式売却 389
負債調達	0~

キャッシュアウト (24/3期以降3年累計)

単位：億円

成長投資	1,900~
株主還元	~850
負債返済	~850
キャッシュ	600

配分可能総額
4,200~

現在

キャッシュイン (24/3期以降3年累計)

単位：億円

営業CF	3,000
キャッシュ	2023年3月末 935
	政策保有 株式売却 405
負債調達	0~

キャッシュアウト (24/3期以降3年累計)

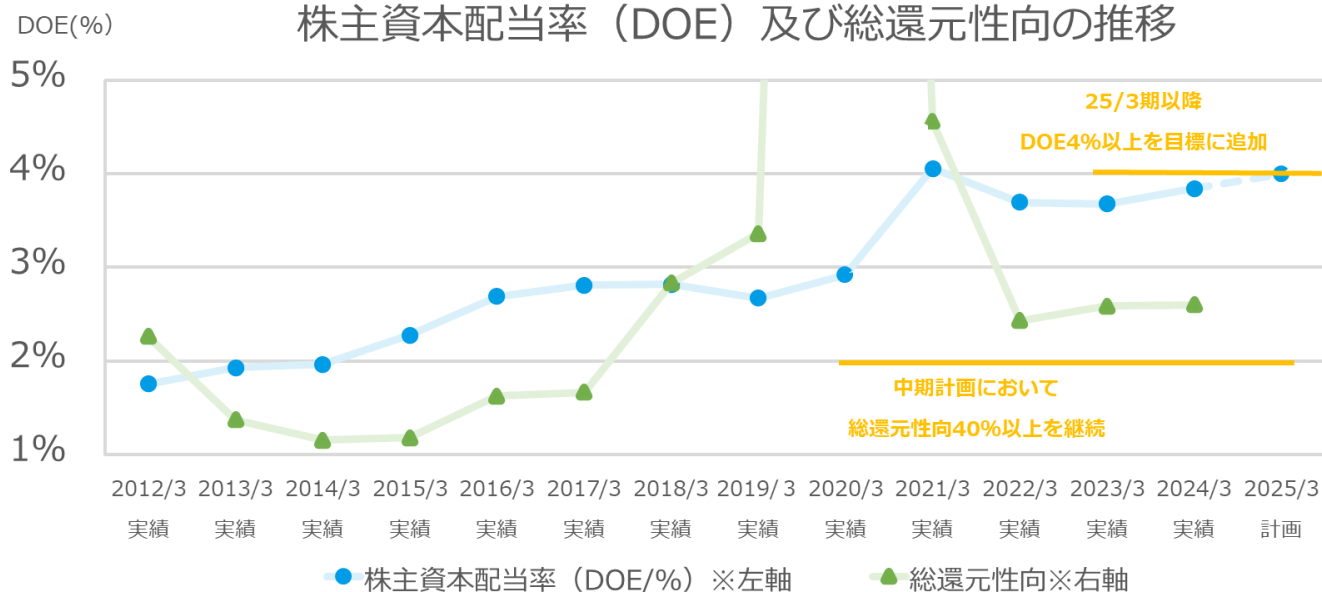
単位：億円

成長投資	1,900~
株主還元	~940
負債返済	~900
キャッシュ	600

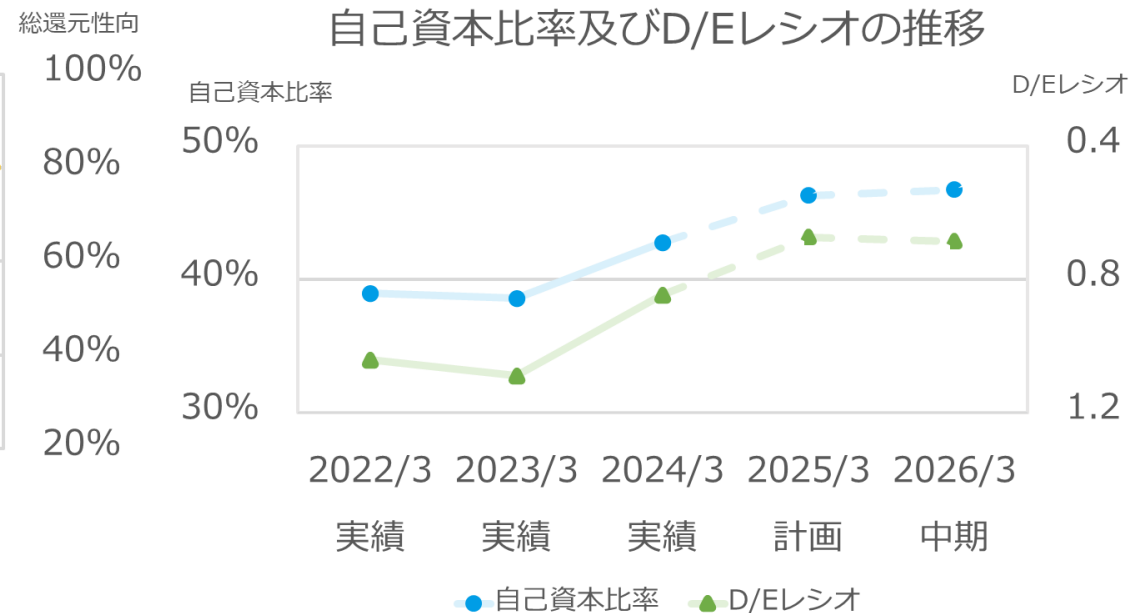
配分可能総額
4,340~

- これまで掲げてきた「総還元性向40%以上」との方針は維持した上で、より安定的な株主還元を実現するために、2025年3月期以降は新たに「**株主資本配当率（DOE）4%以上**」を目標に追加
- 自己株式取得は従来通り機動的に実施
- 自己資本比率及びD/Eレシオは適正な水準を確保し、財務安全性を維持

株主資本配当率（DOE）及び総還元性向の推移



自己資本比率及びD/Eレシオの推移

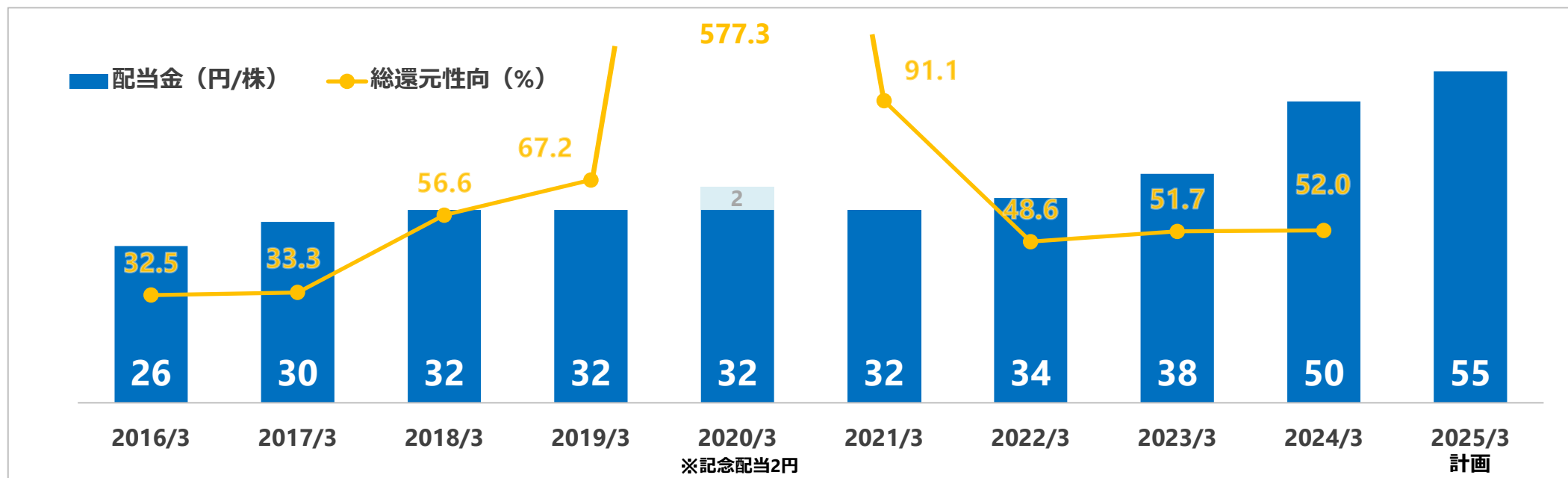


2024年3月期

- ・ 期末配当計画 25円/株
（年間配当50円/株 前期から**12円増配**）
- ・ 150億円、1,014万株の自己株式取得を実施
（取得期間：2023年11月～2024年3月）

2025年3月期

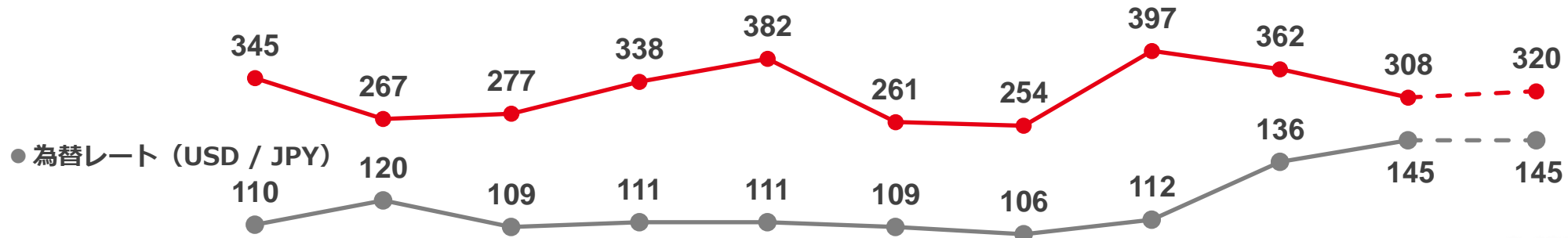
- ・ 年間配当計画 55円/株（前期から**5円増配（DOE4.0%）**）
- ・ 1,000万株（発行済株式数の3.49%）の**自己株式消却**を実施
- ・ 総還元性向40%以上を目標に今後さらなる株主還元を検討



Appendix

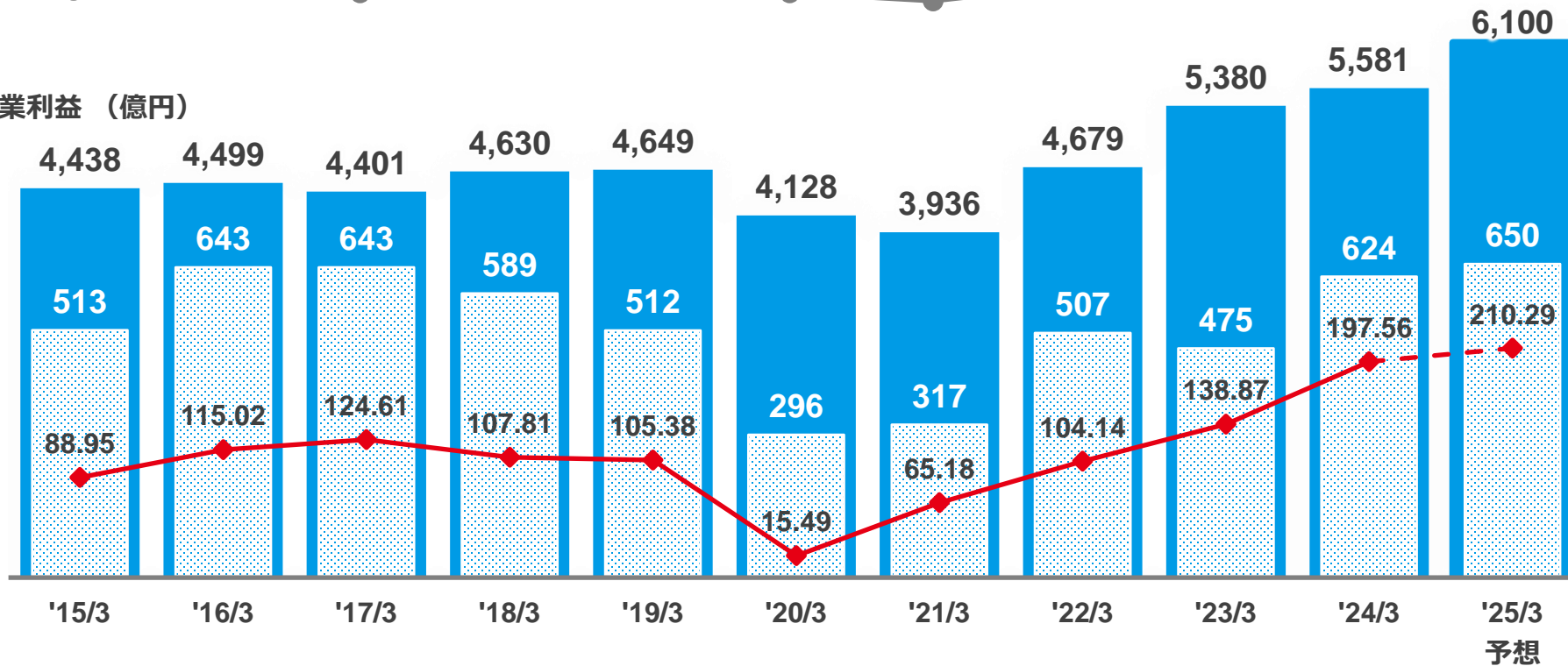
売上高・営業利益・EPSの推移

● メタノールアジアスポット価格 (USD / ton)



■ 売上高・□ 営業利益 (億円)

◆ EPS (円)



マテリアルセグメント、スマートセグメントの組織再編

スマートセグメントにおけるM&A後のシナジー促進、人財育成などをより迅速かつ効果的に推進するため、組織再編を2024年4月1日付で実施。また、同日付で、既存事業同士のシナジー効果最大化を目的に、マテリアルセグメントの脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体をスマートセグメントへ、光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）をマテリアルセグメントへ移管するとともにマテリアルセグメントの組織再編を実施

セグメント	サブセグメント	製品
スマート	ディスプレイ/オプト	光学フィルム用酢酸セルロース (TAC)、機能フィルム、オプティカルレンズ
	IC/半導体	フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤、有機半導体デバイス
マテリアル	アセチル	酢酸、酢酸誘導体（酢酸エチル、無水酢酸など）、酢酸セルロース、アセテート・トウ、ケテン誘導体、エチルアミン
	ケミカル	脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体、1,3-BG



セグメント	サブセグメント	製品
スマート	ファンクショナルプロダクツ	脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体、オプティカルレンズ
	アドバンスドテクノロジー	フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤、有機半導体デバイス、機能フィルム、
マテリアル	アセチル	酢酸、無水酢酸、アセテート・トウ
	ケミカル	光学フィルム用酢酸セルロース (TAC)、酢酸セルロース、1,3-BG、酢酸エチルなど有機溶剤、ケテン誘導体、エチルアミン

※ 青字：スマートセグメントからマテリアルセグメントに移管した製品、赤字：マテリアルセグメントからスマートセグメントに移管した製品

セグメント別 営業利益 2024年3月期実績（対前年度 増減・要因分析）

		営業利益		
単位：億円		分析	増減	増減要因
メディカル・ヘルスケア	数量影響		+1	+ 化粧品原料や健康食品素材、キラル充填剤の販売数量増加
	価格影響		+4	+ 為替影響
	その他		△10	△ マーケティング費用など経費増加
スマート	数量影響		+5	+ 光学フィルム用酢酸セルロースの販売数量増加
	価格影響		+2	+ パルプなど原材料価格上昇に伴い販売価格を是正
	その他		△29	△ 電子材料向け溶剤増産プラント稼働に伴う償却費など経費増加、在庫影響
セイフティ	数量影響		+32	+ インフレータの販売数量増加、操業度上昇
	価格影響		+2	+ 為替影響
	その他		△10	△ 生産地統廃合に伴う費用や生産量増加に伴う費用など経費増加
マテリアル	数量影響		△19	△ 酢酸誘導体や過酢酸誘導体の販売数量減少
	価格影響		+348	+ アセテート・トウの販売価格是正、為替影響
	その他		△109	△ 在庫影響
エンジニアリングプラスチック	数量影響		△39	△ 主に第1四半期の販売数量減少
	価格影響		△18	△ ローエンドマーケットへの拡販による構成差、原料価格低下に伴う販売価格低下
	その他		△13	△ マレーシア拠点の大型定期修繕費用など経費増加、在庫影響

※ 比較のため、2023年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映

・化粧品原料1,3-BG（メディカル・ヘルスケア→マテリアル）・新規投与デバイス研究開発機能（セイフティ→メディカル・ヘルスケア）

セグメント別 事業概況 2024年3月期下期実績（対予想）

メディカル・ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none">キラル関連製品は、インドの分析・受託サービス事業が計画を下回り、売上高は未達となったが、充填剤販売は計画以上を達成国内化粧品メーカーの中国向け苦戦の影響でコスメ事業の売上高は計画未達となったが、健康食品事業はインバウンド需要の増加をとらえて計画以上の拡販を達成
スマート	<ul style="list-style-type: none">TACは、主用途のTV製品需要の回復遅れにより販売数量未達となったが、海外顧客向けの拡販を推進機能フィルムは、特殊モニター用フィルムのシェア減少の影響により販売数量未達となったが、中国市場でのEV需要増加に伴う車載フィルムを拡販レジスト材料は、半導体市場の需要減の影響を大きく受け販売数量未達ながら、液晶パネル材料向けの輸出はほぼ計画並み電子材料溶剤は、海外の液晶パネル市場の需要低迷を受け、販売数量未達
セイフティ	<ul style="list-style-type: none">一部日系自動車メーカーの不正問題や中国自動車メーカーの販売鈍化により、インフレータの販売数量は計画未達
マテリアル	<ul style="list-style-type: none">酢酸のスポット販売など拡販の取り組みを行うも、需要回復の遅れにより酢酸・酢酸誘導体の販売数量は計画未達ながら、販売価格は、酢酸市況が想定よりも高い水準で推移酢酸原料（一酸化炭素）プラントは2024年2月より稼働開始アセテート・トウの販売数量は計画通り、売上高は円安の影響もあり計画以上カプロラクトン誘導体は、市場環境悪化により販売数量未達ながら、自動車向けPPFなど注力領域での販売数量を伸長脂環式エポキシの販売数量は重要回復遅れの影響により計画未達1,3-BGのシェア拡大に向けた拡販に取り組むも、化粧品需要が想定より低調に推移し販売数量は未達
エンジニアリングプラスチック	<ul style="list-style-type: none">グローバルでの自動車生産台数は若干の予想以上ながら、4Q国内における一部自動車メーカーの生産停止や生産調整の影響を受け日系OEMの生産台数は予想以下POMの販売数量は、国内メーカーの減産影響を受けて販売数量は若干の計画未達ながら、海外販売は伸長自動車用途が中心のPBT、PPSの販売数量も、国内メーカーの減産影響を受け、販売数量未達LCPは、スマホなどの電子デバイス需要の低迷が続き、販売数量未達COCは主要顧客の生産計画変更の影響を受け、販売数量未達

セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

単位：億円	売上高							
	2023/3				2024/3			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
メディカル・ヘルスケア	40	41	44	42	34	35	36	34
スマート	96	66	71	64	75	71	79	81
セイフティ	178	220	224	219	224	247	256	229
マテリアル	361	391	424	432	460	451	437	505
エンジニアリングプラスチック	587	648	595	550	503	584	608	573
その他事業	18	17	26	29	12	13	15	16
合計	1,280	1,383	1,383	1,335	1,308	1,402	1,433	1,438

単位：億円	営業利益							
	2023/3				2024/3			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
メディカル・ヘルスケア	4	4	6	△ 0	3	2	4	△ 1
スマート	11	△ 8	△ 6	△ 4	△ 6	△ 5	△ 7	△ 10
セイフティ	△ 2	2	14	△ 9	△ 7	5	25	6
マテリアル	50	54	25	78	94	117	96	121
エンジニアリングプラスチック	66	79	64	44	7	54	60	62
その他事業	1	0	2	0	△ 0	2	1	2
合計	130	130	105	109	91	175	179	179

※ 2023年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映

- ・化粧品原料1,3BG（メディカル・ヘルスケア→マテリアル）
- ・新規投与デバイス研究開発機能（セイフティ→メディカル・ヘルスケア）

単位：億円		単位：億円							
	2020/3 実績		2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 実績 (※1)	2024/3 実績 (※1・3)	2025/3 予想 (※1)
セルロース	59	メディカル・ヘルスケア	87	10	27	22	19	19	10
有機合成	220	スマート	20	29	42	42	26	30	30
合成樹脂	86	セイフティ	88	77	90	90	94	94	140
火工品	85	マテリアル	116	188	86	91	174	169	60
その他事業・全社	27	エンジニアリングプラスチック	71	74	306	306	457	457	380
		その他事業・全社	14	30	12	12	4	4	10
合計	476	合計	396	408	563	563	775	775	630

- ※1 2023年3月期より全社費用配賦方法を見直し、「その他事業・全社」には「その他事業」のみの数値が記載されています。
- ※2 比較のため、2023年4月1日付の化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。
- ※3 比較のため、2024年4月1日付のTAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメント変更を反映した数値です。

単位：億円		単位：億円							
	2020/3 実績		2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 実績 (※1)	2024/3 実績 (※1・3)	2025/3 予想 (※1)
セルロース	75	メディカル・ヘルスケア	14	14	28	15	11	11	10
有機合成	61	スマート	16	20	27	27	29	31	30
合成樹脂	60	セイフティ	47	50	65	65	71	71	75
火工品	73	マテリアル	90	90	97	110	131	129	190
その他事業・全社	21	エンジニアリングプラスチック	69	70	86	86	82	82	110
		その他事業・全社	22	25	6	6	6	6	5
合計	290	合計	258	269	308	308	330	330	420

- ※1 2023年3月期より全社費用配賦方法を見直し、「その他事業・全社」には「その他事業」のみの数値が記載されています。
- ※2 比較のため、2023年4月1日付の化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。
- ※3 比較のため、2024年4月1日付のTAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメント変更を反映した数値です。

単位：億円		単位：億円							
	2020/3 実績		2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 実績 (※1)	2024/3 実績 (※1・3)	2025/3 予想 (※1)
セルロース	13	メディカル・ヘルスケア	21	19	22	28	24	24	27
有機合成	40	スマート	27	36	42	42	40	48	49
合成樹脂	38	セイフティ	51	56	63	57	60	60	70
火工品	51	マテリアル	16	15	28	28	38	31	35
その他事業・全社	70	エンジニアリングプラスチック	35	37	61	61	68	68	76
		その他事業・全社	46	45	3	3	3	3	3
合計	213	合計	195	207	219	219	234	234	260

- ※1 2023年3月期より全社費用配賦方法を見直し、「その他事業・全社」には「その他事業」のみの数値が記載されています。
- ※2 比較のため、2023年4月1日付の化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。
- ※3 比較のため、2024年4月1日付のTAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメント変更を反映した数値です。

2025年3月期通期業績予想

単位：億円

		2024/3 実績*			2025/3 予想			増減
		上期実績	下期実績	年間	上期予想	下期予想	年間	
	メディカル・ヘルスケア	69	70	139	70	80	150	+11
	スマート	168	170	338	165	190	355	+17
	セイフティ	471	484	956	520	560	1,080	+124
	マテリアル	890	932	1,822	910	950	1,860	+38
	エンジニアリングプラスチック	1,087	1,181	2,268	1,260	1,340	2,600	+332
	その他事業	25	32	57	25	30	55	△ 2
売上高		2,710	2,871	5,581	2,950	3,150	6,100	+519
	メディカル・ヘルスケア	5	3	8	1	7	8	+0
	スマート	1	△ 10	△ 9	△ 5	0	△ 5	+4
	セイフティ	△ 1	31	30	32	45	77	+47
	マテリアル	199	209	408	163	162	325	△ 83
	エンジニアリングプラスチック	61	122	183	126	111	237	+54
	その他事業	1	3	4	3	5	8	+4
営業利益		266	358	624	320	330	650	+26
経常利益		307	377	684	335	335	670	△ 14
親会社株主に帰属する当期純利益		298	261	558	300	280	580	+22
(参考) 為替レート USD/JPY		141	148	145	145	145	145	

※2024年4月1日付の組織変更により、TAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメントを変更しました。
比較のため、2024年3月期実績は、それらのセグメント変更を反映しています。

為替レート・主要原燃料価格動向

		2023/3		2024/3			2025/3	
		上期実績	下期実績	上期実績	下期計画	4Q実績	上期計画	下期計画
為替レート (USD/JPY)		134	137	141	135	149	145	145
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	374	349	295	300	327	320	320
	原油 ドバイ (USD/bbl)	102	83	82	85	81	90	90
	国産ナフサ (円/kl)	83,750	69,500	65,550	67,000	72,500	71,000	71,000

予測に関する注意事項

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。